

文学博士 北条常久が解く

～秋田ゆかりの日本近代文学者・著名人たち～



あきた文学資料館名誉館長、秋田県生涯学習センターシニアコーディネーターの北条常久氏が、秋田にゆかりのある作家（芥川賞、直木賞受賞者含む）をはじめ教育等の分野において功績あった25人の方たち（別表に記載）についての研究内容を、【生涯学習講座】に仕立て、あなたの街にお届けします。

ご希望の人物（別表からお選びください）、開催日、会場等についてお知らせください。

※ かかる経費は、交通費のみです。

※ 講演時間は90分程度です。

□講演の依頼は次へどうぞ！

秋田県生涯学習センター学習事業班

☎018-865-1171

（別表）

	人物名	分野等	秋田との関係、作品等
1	後藤 宙外	町長、作家	旧仙北郡弘田村出身。明治31年から純文学雑誌『新小説』の編集を担当。夏目漱石の「草枕」、田山花袋「布団」を載せ、二人を世に出す。自らも執筆した「ありのすさび」、「腐肉団」、「独行」は名高い。故郷に帰り、六郷町長になり弘田の柵を調査した。
2	小杉 天外	作家	旧六郷村出身。明治36～40年代にかけては尾崎紅葉と並ぶ小説界の第一人者。「読売新聞」に連載した紅葉の「金色夜叉」の後を継いだ天外の「魔風恋風」は大評判となった。他に「初すがた」、「はやり唄」。
3	山村 暮鳥	詩人	群馬県出身。明治41年に秋田市保戸野の聖救主教会に伝道師として着任。さらに湯沢講義所に転じ、地元で馴染み文学に開花し、詩人として名をなす。詩集として『聖三稜玻璃』、『雲』
4	石坂 洋次郎	作家	弘前市出身。横手市での教員時代の思い出を小説にして、戦後の若者に迎えられた。『若い人』、『青い山脈』、『山と川のある町』
5	石川 達三	第1回芥川賞	横手市で誕生。移民をテーマにした『蒼茫』、組合運動をテーマにした『人間の壁』など、社会派作家として一世を風靡した。秋田市立中央図書館明徳館に石川達三記念室がある。
6	高井 有一	芥川賞	東京生まれながら、祖父が角館出身の作家で美術評論家である田口掬江で、戦時中その地に疎開したためか、秋田を舞台にした作品も多い。芥川賞作「北の河」は疎開時に母の入水自殺を描いた作品。『真実の学校』、『夢の碑』、『少年たちの戦場』
7	鶴田 知也	芥川賞	九州博多出身。北海道で酪農生活をしてから社会主義運動に入り、戦時中秋田に伊藤永之介を頼って疎開し、秋田で戦後活躍した。北海道時代をテーマにした酪農生活とその地で知ったアイヌと和人の抗争を描いた「コシャマイン記」で芥川賞。
8	千葉 治平	直木賞	旧田沢湖村出身。戦地から帰国後、その体験をもとにした「わらび根を掘る人々」で、さがけ文学賞、『虜愁記』で直木賞。田沢湖の自然を描いた『山の湖の物語』。

※裏面へ続く

	人物名	分野等	秋田との関係、作品等
9	加藤 富夫	作家	旧三関村出身。海軍航空隊での経験をもとにした文学作品が多い。県南の高校で英語教師をしながら小説を執筆。「神の女」が文学界新人賞、「玩具の兵隊」、「酋長」、「さらば・海軍」が芥川賞候補。
10	小坂 太郎	詩人	旧西馬音内町出身、中学教師のかたわら農民詩人として活躍。『北の儀式』で小熊秀雄賞、『秋田でかせぎ詩集』を編集。『北の鷹匠』。西馬音内盆踊りの普及にも努めた。『西馬音内盆踊りーわがこころの原風景』。
11	西木 正明	直木賞	旧西木村出身。雑誌編集者、探検家としても活躍。その経験を生かし『オホーツク謀報線』で日本ノンフィクション賞新人賞。『凍れる瞳』で直木賞。
12	阿部 牧郎	直木賞	京都生まれ。戦争の疎開で父の実家のある八幡平村に疎開し、大館、花輪で青春時代を過ごす。その体験を元にした『それぞれの終楽章』で直木賞を受賞。花岡事件をもとにした「飛べ落下傘」。
13	小林多喜二	プロレタリア文学者	旧下川沿村出身。少年時代に小樽に移住。小樽高商から北海道拓殖銀行に就職。社会主義に急接近し、銀行を退職してプロレタリア文学者として活躍。代表作『蟹工船』は名高い。「転形期の人々」には秋田時代が描かれている。
14	伊藤 永之介	農民文学者	秋田市出身。本籍は旧上小阿仁村。中通小学校から日銀秋田支店に行員見習いで就職。その時代に「種蒔く人」により文学に目覚め退職して新聞記者を経て、上京し農民作家。戦中秋田に疎開し故郷の文学発展に寄与した。「鶯」、「梟」、「鴉」、「警察日記」、「総督府模範竹林」
15	渡辺 喜恵子	直木賞	旧檜木内村生まれ。二歳で旧鷹巣町に転居。鷹巣小から能代高女に進学し、卒業後作家を目指し上京。画学生と結婚する。彼の病死をテーマにした『いのちのあとさき』で作家活動に入る。『馬淵川』で直木賞。『プレメリアの木陰に』、『タンタラスの虹』、『風に咲くプアマレ』のハワイ三部作、『啄木の妻』等多作。
16	松田 解子	女性解放運動作家	旧荒川村出身。地元大盛小から秋田女子師範卒。母校に勤務した後上京し作家活動。『おりん口伝』、「地底の人々」、「産む」、「乳を売る」。
17	矢田 津世子	作家	五城目町出身、九歳にして東京に転出。高校時代から雑誌等に投稿、『女人芸術』に加盟、23歳で「罌を跳び越える女」が懸賞小説に当選。プロレタリア文学の傾向を示すが後に転向。「神楽坂」が芥川賞候補となる。美貌のためにエピソードが多い。
18	和崎 ハル	女性代議士	秋田市出身。秋田高女一期生。夫の死別後、美容院を開業。早川カイとともに日本基督教婦人矯風会秋田支部を設立し、婦人解放運動に専心。戦後初の普通選挙で女性代議士1号。
19	早川 カイ	婦人解放運動	山梨県昭和町（現甲府市）出身。眼科医早川祐吉と結婚。夫が秋田市で眼科開業。日本メソジスト秋田教会に所属。日本基督教婦人矯風会秋田支部を結成。関東大震災被災者支援以来公娼廃止運動を展開。婦人選挙獲得同盟秋田支部を設立。秋田婦人ホームを建設。
20	滑川 道夫	児童文学者	旧湯沢町出身。北方教育の第一人者。文部省の学校図書館運動を推進。日本読書学会会長。日本児童文学学会会長。『文学形象の綴方教育』、『桃太郎像の変容』
21	遠藤 熊吉	標準語教育	旧西成瀬村出身。国語伝習所で日本の標準語教育を学び、小学校教員として秋田県の標準語教育普及に尽力。東成瀬小学校校長で定年。
22	成田 忠久	綴り方教育	旧山本郡鶴川村出身。秋田市で豆腐屋を経営しながら、綴り方雑誌『北方文選』を刊行し、それが日本綴り方教育のモデルとなり、北方教育の名が全国に広がった。
23	小田内 通便	郷土地理学	秋田市出身。東京高等師範卒。東京、武蔵野でその自然環境と住民の関係、土地の利用などを学び、日本の郷土教育の先駆をなす。文部省が推進する郷土教育の中心となり、各県師範学校に郷土教育を広める。
24	むの たけじ	ジャーナリスト	旧六郷町出身。横手中学から東京外国語学校に進学。横手中学時代の石坂洋次郎との師弟関係は有名。外語卒業後、報知新聞、朝日新聞記者として活躍し、戦後横手から「週間たいまつ」を刊行。地方にありながら、東北、中央に向けて発信。疲弊した東北の文化向上と戦後民主主義の進展に尽くした。『たいまつ十六年』
25	多田 等観	僧侶	旧土崎港町出身。单身チベットに渡り、ラマ教を本山で学び、ダライ・ラマからラマ教の大僧正に任ぜられ、帰国後に仏典、典籍を2万5千点余を授かり、日本の仏教研究に役立てた。彼も東北大学に教職を得て日本仏教研究に尽力した。